

# IIS と Moodle を利用した平和記念式典アテンド業務の JOB エイド開発及び英語学習支援システムへの展望

## Development of Job aid system for Peace Memorial Ceremony Attendance Business by Using Moodle on IIS and prospect of English learning system.

坂本 昌宏<sup>1</sup> 都竹 茂樹<sup>1,2</sup>

Masahiro SAKAMOTO<sup>1</sup> Shigeki TSUZUKU<sup>1,2</sup>

熊本大学大学院社会文化科学教育部 教授システム学専攻<sup>1</sup> 熊本大学教授システム学研究センター<sup>2</sup>

<sup>1</sup>Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

<sup>2</sup>Research Center for Instructional Systems, Kumamoto University

[概要]広島市では毎年 8 月 6 日に平和記念式典が開催される。来訪する約 120 の国や地域、国際機関の大使等を広島市行政職員がアテンドするにあたり、特に初担当となる職員の不安を払しょくし、適切な業務遂行の実現を目的として、2021 年度同式典従事者を対象として、Moodle を用いた業務支援システムを構築した。また、これを拡張することにより、広島市職員向け英語学習支援システムとするといった今後の展望について考察する。

キーワード: 業務支援、知識共有、ラーニングマネジメントシステム、英語学習支援、リカレント教育

### 1. はじめに

毎年 8 月 6 日に広島市において、平和記念式典が開催される。その際、約 120 の国や地域、国際機関から大使等の来訪があり、これら来訪者ごとに広島市職員が担当となり、アテンド業務を実施している。

また、これに付随して、平和記念資料館や被爆体験者講和、ディナーレセプション、市内観光等多彩な行事が実施されるため、最長 8 月 5 日～8 月 7 日までの 3 日間職員が大使等に随伴する。

その際、必要となる最低限の外交プロトコルに関する知識や、広島到着時の広島空港又は広島駅での出迎え時の動線、3 日間のイベントスケジュールや、市内移動の手配といった膨大な知識と、要人に対する細やかな配慮が必要となることから、特に初回の担当者は不安に感じる事が多く、何らかの失敗によって「2 度とやりたくない」という思いを抱き、ある程度の語学力があるのにこれを避けたがる職員の発生といった問題が生じてきた。

今回は、その解決を目的として、2021 年 8 月 6 日の同式典業務に際し、Moodle を用いた情報提供とナレッジ共有、また、広島市について英語で説明する際の参考となるサイトのリンク集を作成し、アテンド業務従事者への支援を行った。

### 2. 構築したシステムの特徴

#### 2.1 LMS 環境

自らの先行研究により、廉価な VPS サーバを用いた Windows Server 2019 + IIS(=Internet Information Server) + Moodle で十分な応答処理ができること、セキュアな環境を短期間に構築できることが判明していたことから、同じく IIS 上に Moodle を構築した(図 1)。

Moodle は、多くの実践事例として、LAMP(=Linux, Apache, MySQL, PHP)環境で構築されている(山田ほか<sup>1</sup> 2020、大石ほか<sup>2</sup> 2005、奥村<sup>3</sup> 2007)。

しかし、Windows Defender ファイアウォールの GUI を用いて簡単にセキュリティの設定ができること(天野<sup>4</sup> 2019)、セキュリティバッチの適用が容易なこと、ログがまとまって得られることなど、Windows 環境で構築するメリットも多いと考えている。

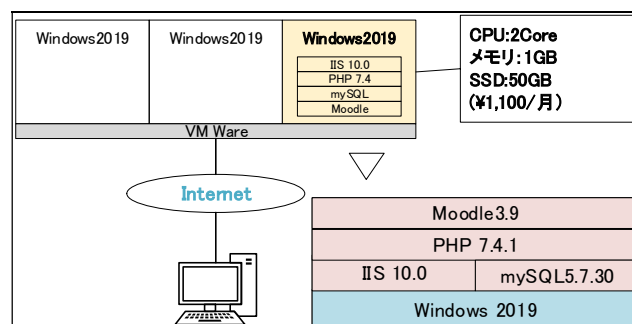


図 1 システム構成図

## 2.2 コンテンツの特徴と利用者評価

### 2.2.1 サイト構成

シンプルに「アテンド従事者説明会資料」「アテンド活動・英語活動支援コース」の2つのメニューとした。

これについては、事前説明会で1度聞いてもなかなか覚えられない。後から見返したいといったニーズを満たすために前者を、従事者情報交換サイトや、ムスリム・ベジタリアンガイドブック、英語学習情報といった、読み物となるコンテンツに分割して作成するという方針により作成したものである。

なお、利用者は希望を募る方式で募集し、従事者の約半数である59名の登録があった。

### 2.2.2 アテンド従事者説明会資料への評価

説明会の動画については、必要などころだけ見直すことができるという点について特に好評であった。プレイヤーの機能であるが、倍速再生機能は一通り流れを復習する際に、時間の節約になり非常に効果的であったとの感想が得られた。

### 2.2.3 アテンド活動・英語活動支援コースへの評価

新着情報に記載した広島駅の動線について、広島駅が大規模改修中のため非常に有益であったとの意見が得られた。また、ムスリム・ベジタリアンガイドブックは、毎年聞かれては困る職員が出ていたとのことで取り入れたが、これは該当する禁忌を持つ大使等を担当した職員に好評であった(図2)。



図2 作成した Moodle コンテンツの一部

## 3. 反省点と今後の展望

アテンド従事者職員の約半数が登録したこと。タブ

レットやスマートフォンでいつでも参照できるという点については好評であった。よって、ジョブエイドとしては一定の成果を得られたと考えている。利用者アンケート等は今後実施して、来年度はDXの推進とあわせた、説明会で配布される各種紙資料の電子化にも取り組んでいきたい。

反省点として、①英語学習情報が単なるリンク集となっており、あくまでも個人の英語力に依存するものになっていたこと、②掲示板の書き込みに躊躇する職員が多く、ナレッジ共有サイトとしての観点からは活発な交流がされなかったことが挙げられる。

しかし、アテンド業務従事をきっかけとして、英語力の向上そのものに取り組みたいと考える職員は多く、広島市研修センターが実施しているTOEIC-IPテストの受験希望者は、毎年100名程度の定員に対して2倍程度の応募があることや、全国通訳案内士資格所持者や広島県地域通訳案内士資格所持者といった一定以上の英語力を有する職員も在職している。

これらの人的資源を有効に活用した、職員全体の日常的な交流と、広島ならではのコンテンツと言える「平和教育に役立つ英語学習コンテンツ」を活かして、日常的な英語の学びの場となるような、イベント用LMS活用から、日常的なLMS活用への展開。そして、広島市職員に閉じたものではなく、これらのコンテンツを用いて、英語学習と平和教育を同時に実現できるような、学習コンテンツの構築へと研究を進めていきたいと考えている。

## 参考文献

- (1) 山田真由美、廣田知子、浅本紀子(2020): 大学運営用 Moodle 導入事例について, 日本 Moodle 協会全国大会 (2020) 発表論文集, p6-p8
- (2) 大石 義, 増井 寿一, 小梁 典子(2008) Moodle による教育支援システムの構築, 静岡産業大学情報学部研究紀要, 10, p131-p143,
- (3) 奥村 晴彦(2007) 三重大学 Moodle の構築と運用, 薬学図書館, 52(3), p254-p257
- (4) 天野 司(2019): ひと目でわかる Windows Server 2019(p320-p355)